

6月6日 夏ほうれんそうの日

7月11日 夏だいこんの日



登録証を受け取った西村寿文県本部長(左から2人目)＝岐阜市宇佐南、J A会館

J A全農岐阜が日本協会に申請

J A全農岐阜が夏野菜の魅力発信や消費拡大を図ろうと記念日制定を企画。6月上旬に出荷ピークを迎え、6をリョク(緑)と読むとホウレンソウをイメージできることから、6月6日を「夏ほうれんそうの日」、6月下旬から7月にかけて出荷最盛期となり、11が大根の形を連想させることから7月11日を「夏だいこんの日」とした。

夏ほうれんそうは飛騨地方を中心に年間約5400トン、夏だいこんはひるがの高原(郡上市)を中心とする高冷地で年間約4300トンを出荷している。生産者によると、いずれも生育期間が短いことからえぐみが少なく、夏を乗り切るのに必要なベータカロテンや鉄分といった栄養素を含む。大根も冬のものほど固くないという。

岐阜市宇佐南のJ A会館で登録証の授与式があり、J Aの関係者や生産者ら16人が出席。J A全農岐阜の西村寿文県本部長は「登録だけでなく、岐阜の夏野菜を知ってもらうきっかけになるよう、全国的な取り組みにしていきたい」と力を込めた。

J A全農岐阜は2024年、8月8日を「夏トマトの日」に制定。今後は、生産量の多い富柿や春だいこんの記念日制定も目指す。

野菜2種 記念日制定

6月6日は「夏ほうれんそうの日」、7月11日は「夏だいこんの日」。県内で生産の盛んな二つの夏野菜が27日、記念日として制定された。全国農業協同組合連合会県本部(J A全農岐阜)が日本記念日協会(長野県)に申請し、認定された。